

よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第18号 聖母の被昇天（2020年8月15日）発行



マリアさま、助けてください！

ヘルマン 渡辺 義行 神父

ルルドでアメリカの青年司祭に出会った。46年も前のことである。11月で、巨大な広場に人がまばらな季節であった。彼は英語を話す人がいないことがフラストレーションになっていた。それで、私の宿泊していたペンションに彼を誘った。やって来るや彼は壺を切ったように2時間も一人で話しまくった。

ひと段落したところで、私はゆるしの秘跡を受けたいと言うと、彼も受けたいという。互いに、ゆるしの秘跡を私たちは授けあって別れた。彼は、何か大きな悩みを抱えてルルドにもう一週間も滞在していた。

その後、私はアメリカに留学した。ふつと、彼のことを思い出して、電話してみた。すると、明るい弾んだ声が返ってきた。彼はルルドのマリア様を通して元気になったのだと思う。

毎年、おびただしい病人がルルドに巡礼する。多くの方はそこで病気は治らない。しかし、そのほとんどの人は癒されて、希望と喜びのうちに巡礼を終えるのだそうだ。

イエスは、十字架の上から弟子ヨハネを見てマリア様に「あなたの子です」と言われた。また、ヨハネにはマリア様を「あなたの母です」と言われた。こうして、神の母マリ

アは私たちの母ともなられたのである。お告げを受けた時から受難までのイエスの御生涯をご一緒したマリア様は、喜びも苦しみも味わいながらイエスと共に救いのわざに協力されたのだ。

群馬県桐生の旧フランシスコ会修道院の庭に、十字架の道行きがある。仏像を彫る人が10年かけて彫り上げた石像十字架の道行きである。その中の一つ、十字架から降ろされたイエスを迎えるマリア様の姿が今も鮮明に心に残っている。マリア様は、どっしりと、がっしりとご自分の膝の上にイエスを抱いておられる。

このお母さまこそが、私たちの悩みも苦しみも悲しみもしっかりと受け止めてくださる方に違いない。

『マリアさまのこころ それは青空 私たちを包む 広い青空』*なのだ。だから、私たちは誰でもマリア様に信頼して走り寄り、願っていることを素直にお話しし（祈り）するように招かれているのである。マリア様は、私たちの祈りを神様に取り次いでくださるお母さまだ。

私は、求道者の時から“ロザリオ”の祈りを大切な祈りとしてきた。今も相変わらずロザ

リオを手にして祈っている。

光明社版の「祈りの手引き」にはロザリオの祈りを「私たちはロザリオの祈りを通して救いの神秘を黙想し、マリアを讃えます。そしてマリアにならないが、私たちの信仰、希望、愛を養います。」と解説しています。

マリア様におすがりしつつ、コロナ終息と世界平和のためにマリア様とともに祈りましょう。

* 典礼聖歌 407 番（佐久間彪神父作詞）

私の名はマリア

シトー会伊万里の聖母トレ^レス^ス修道院

Sr.アグネス 吉岡 美佐緒

私が所属するシトー修道会は、1098年フランスのブルゴーニュ地方にあるシトーの地に創立されました。聖ロベルト、聖アルベリコ、聖ステファノをはじめとする創立者たちが荒れ野を敢然と切り開いて新修道院を建てたのは、福音の要約と言われる「聖ベネディクトの戒律」を忠実に生き、地上に神の国を実現するためでした。現代の私たちはその子孫なのです。



聖母子像（横尾龍彦作）

シトー会の特徴の一つは、本会のすべての聖堂と修道者が聖母マリアに奉献されていることでしょう。ですから、私たち伊万里の修道院は「聖家族の聖母修道院」が正式名称です。また、男女を問わず、すべての修道者の修道名は「マリア」で始まりますので、「マリア・

アグネス」が私の正式な名前です。荘厳誓願式などの儀式ではこの名で呼ばれ、墓標にはこの名が記されます。

このようにマリアの名を身に帯びて、日に七たび、マリアとともに神を賛美し、「サルヴェ・レジーナ（元后あわれみの母）」で1日を終える私たちの修道生活にとって、聖母マリアは切っても切れない存在です。ところが、2009年の受洗以来、私にはマリア様のことがよくわからなかったのです。新川・釧路教会の姉妹方の聖母への熱い思いや、フランシスコ会の神父様方のマリア様との親密な交わりに触れて、羨望とともに、ある種の後ろめたさを感じていたのは事実です。これは修道院に来てからも変わりませんでした。「マリアとはいったい誰なのか」。釈然としないまま、日々お

告げを祈り、「マニフィカト」を歌っていたのです。

このような私に光を与えてくれたのは、待降節の読書課（夜課）で朗読された聖アンブロジオ司教の『ルカ福音書注解』の一節でした。聖アンブロジオは、聖母の訪問を次のように解説しています。「（マリアは）希望に

胸を躍らせて、奉仕の務めを果たそうとして、喜びにかられて急いで旅立った。すでに神に満たされていたマリアは、急いで高い所を目指して行くとしか考えられないからである」。ここから浮かび上がるマリアのイメージは、静的で優美なマリアとは対照的に、聖霊の喜

びにかられて、ひたすら山路を駆け上る活発な女性です。旅路は危険に満ち、身重の体には決してやさしくなかったことでしょう。しかし、マリアはこれを顧みず、姉妹とともに喜び、姉妹に仕え、ともに神を賛美するため、大胆に、勇敢に、山里に向かって行ったのです。これこそ私が探し求めていたマリアでした。

それ以来、マリアは私にとって母であり姉のような親しい存在になりました。同時に、マリアは自分を捨て、自分の十字架を背負って、誰よりも先に主イエスに従って行かれた方です。旅する私たちのはるか前方に、喜びにかられたマリアの後ろ姿が見えます。「お言葉どおりになりますように」を心に刻み、主と人々への奉仕を学ぶため、日々のちを捧げる私たちマリアの子らの祈りと労働が、パンデミック後の世界の「地の塩、世の光」となりますように！



我が家のマリア様

マリア・ドロテア 北川 恵子

もうだいぶ前のことです。学校が荒れている時期があり、我が家の庭に何枚かのビラが落ちていました。近くの学校や先生に対する批判の内容でした。そのビラを読んだ時、思わずマリア様に守ってもらいたいと云う思いが湧いてきました。

幸い、我が家の作りが三方正面で、見通しの良い立地です。そこにマリア像があれば、この地域・学校を守って頂けると思いついた

のです。外国の写真で良く見かける、野外や軒下に祀られている、十字架や御像がイメージとして浮かびました。早速、大工さんに頼んで作ってもらいました。ルルドのイメージを伝えるのは難しい所もありましたが、何とか出来上がりました。



驚いたのは、この作っている間の心の動きです。御像を見る方々に信仰告白をしていることを、どう受けとめられるのだろうかと思ひ、少し恐ろしさを感じました。しかしその思いは、思いがけない反応で喜びに変わったのです。子供の一団が家の前を通りながら「この家はマリア様の家だよ」と仲間に誇らしげに話す男の子。また、若いお母さんが、自転車で通り過ぎる時「美しい物を作ってくださいありがとうございます」等、思いがけない反応の数々でした。そして町内会長さんには、決してあやしい物を作っているのではなく、街を守って頂く気持ちで作っています。とルルドのパンフレットと共にお知らせしました。キリスト教が、日本人の間にとても良く理解されていることが嬉しかった出来事でした。

私達家族がマリア様に頼っている基は、北川の両親による所が大きく、2人が私達の為に、ルルドを訪れ、私達に子供が授かるように祈ってくれたことにもよります。その後、

娘にも子供が誕生し、今、その3才の子と一緒にロザリオを唱える時大きな喜びと、幸せを感じています。小さいながら、子供用のロザリオをくる姿は本当に可愛いです。これからもマリア様に見守られて成長することを、家族で祈り続けてゆきたいと思います。

ちなみにマリア像の前のプレートには、両親の感謝と共に1952年から、この道東の地へ宣教に来て下さった18人の宣教師の方々のお名前を記させていただきました。



釧路地区の教会からのたより

① 根室教会から

ヴェロニカ 平木 タケ

新しい令和2年(2020)の年を迎え、主の公現の日を過ぎた頃に、昨年末、中国で発症したとされる新型コロナウイルスの感染が報道され始めました。その後、四旬節に入り、更にご復活の日を迎えましたが、ミサ聖祭のできない信徒の方達と、また、多くのベトナム技能実習生とともに祈り集うことの出来ないもどかしさの中、お花を捧げるのみでした。

ミサ中止の期間中(2/23~6/7)、離れていても心はひとつとお互いを案じつつ、毎月のお便り「心のもしび」に「新型コロナウイルスの蔓延するなかで聖母マリアに保護を願う祈り」、次号には「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」を添え、信徒の方達へ送りました。

根室は少人数の共同体ですが、平成25年よりベトナムから技能実習生が多く来根、ミサに参加、共に祈りの時を過ごし、親睦を共にしています。神様の計画されることはなんと素晴らしいことと感謝でいっぱいです。

この度のことでは、世界中が先の見えない、大変な今を過ごしています。そのような時、以前にも司祭が来根されない折には、午前中、教会を開放し、実習生と共に集会祭儀、ロザリオの祈り、各々に黙想と、その後には分かち合いの時を過ごしてきました。

今後にも必要なときには私たちのできることを続けて行きたいと思っております。

6月14日より隔週でミサが行われることに感謝しつつ、今、世界中に蔓延し多くの感染者と亡くなられた方々を思い、一日も早い終息を願い、祈り続けることと、更に私たちのために司牧されている多くの司祭への感謝と健康を願い祈り続けましょう。

ふと黙想の時に様々なこと、神様からの何かメッセージのような感じがしてなりません。そのような思いの日々を過ごしつつ、祈りの大切さを痛感しております。



② 厚岸教会から

ヨハナ・パオラ 保田 さやか

厚岸教会は長く長く、ラザロ神父様と共に歩んできました。もちろん、たくさんの神父様方にお世話になってきましたが、私の中では厚岸教会といえば、ラザロ神父様です。30年以上、私たちと共にいてくださる。遠くイタリアを離れて、もう90歳近くになられても、声も小さくなってしまったけど、聖歌もとてもお上手ですし、センスも抜群です。お花や蝋燭の飾り方もいつもとても素敵です。ラザロ神父様の飾ってくれた厚岸教会のクリスマスツリーはシンプルで私の中では世界で一番美しいツリーです。ラザロ神父様がずっと心にかけてくださっている厚岸教会は小さいけれど、神さまがすぐ隣に座ってくださるような気持ちになる教会だと感じています。

ラザロ神父様は話の終わりにいつもいいます。「私のために祈ってね。私、とても弱い者。私もあなたのために祈るよ。」御ミサの後も電話の終わりでも、いつも必ず。

私は自肅前から御ミサにもなかなかあずかれない不良信者ですが、“私には神さまがい

る”と信じ切れています。疑ったことがない。それはラザロ神父様がいつも私たちのために祈ってくださっているからかもしれません。

神さまの愛が、深く広い海だとしたら私がそこに心から安心して居られるのはラザロ神父様といういかり錨のおかげです。信者であるどなたの胸の中にも、錨となってくさっている神父様がいらっしゃると思います。

コロナ前も後も変わらず私たちに寄り添ってくださる神父様方のために『イエズス様、よろしく。マリア様よろしく。』といつも祈りたいと思います。



マリア 岩永マキさんのこと

レヅァ・ベ行イタ 勇 まゆみ

昨年、北海道新聞に連載された小説「逃亡者」（中村文則著）は、第二次世界大戦下で悪魔の楽器と呼ばれたトランペットを手に逃亡する潜伏キリシタンの末裔である青年が主人公となっています。

物語は潜伏キリシタンや第二次世界大戦を描きつつ、「信仰、愛、戦争」が表現された作品です。特に印象に残ったのは潜伏キリシタンを描いた章で、岩永マキさんが登場したことです。

岩永マキさんは潜伏キリシタンの家庭に生まれ、1864年の信徒発見の後、カトリック信者となりました。その後、浦上四番崩れと言われる激しい弾圧を受け、流罪のうえ厳しい苦役を科せられたとされています。その後、禁

教令が解かれ帰郷してからも天災や流行病など、度重なる苦難とたたかっています。

その全てを乗り越え 1874 年、3 人の女性信者と共に、浦上本原郷に児童養護施設とされる「小部屋」（現在の浦上養育院）を開設し、多数の孤児を引き取って育てたのが始まりとされています。彼女が養育した孤児は約 950 人以上とされています。

「己のごとく愛する」ということを生涯かけて実践し、長崎にある「お告げの MARIA 修道会」の原点を築いたとされています。

新聞小説を通して出会えた岩永マキさんの生涯に深い感銘を覚えたことから、より多くの方に知っていただきたく、ご紹介いたしました。



聖マリアをいつもあなたの伴侶にし、ロザリオを祈ってください。

お願いします…。決して離れてはなりません！使徒ヨハネがいつもマリアと同じ家に住んでいたのと同じように、あなた方も自分の家に「マリアといっしょに」住んでいてください。

彼女がいつもあなた方に寄り添い、護ってくださいますように。

(教皇フランシスコのことば 365 より)



編集後記

聖母被昇天である 8 月 15 日に“よきおとずれ”を発行できたことに感謝いたします。

また、分散ミサとなってから 2 ヶ月、毎回全体の半分のかたにしか、お会いできませんので、教会報や教会だよりが皆さんとの繋がりを感じる一助になればと思っています。

コロナウイルスで、私たちはいろいろな面で不安と恐れを感じますけれど、そこから神様の言わんとすることに耳を傾けて、希望をもって日々過ごすことができるよう祈ります。

クリスマスには皆さんとともに祝うことができることを願いつつ…。 (N.K)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会